

第4回「利根大堰周辺の治水と環境検討会」 議事要旨

【会議概要】

日 時	平成 27 年 10 月 20 日 (火) 14 : 30~16:30
場 所	(独)水資源機構 利根導水総合事業所 説明ホール
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事次第、席次表、検討会設立趣意書、検討会規約、検討会会員名簿 ・ 資料 1 事務所ホームページへの検討会に係る掲載について ・ 資料 2 基本方針 (案) について ・ 資料 3 掘削水路による車両侵入抑止対策 (案) ・ 資料 4 水際再生ゾーンの整備について (案) → (希少種情報を含んだ頁を非開示) ・ 資料 5 今後の予定について (案) ・ 参考資料 環境調査実施状況について → (貴重種情報を含むため非開示) <p><会員からの資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利根大堰周辺の希少動植物の分布概況について (島田氏より) ・ 検討会規約見直し (案) (岩田氏より)
出席者	<p>(団体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新井 千明：NPO 法人熊谷の環境を考える連絡協議会 副会長 ・ 今村 武蔵：NPO 法人ふるさと創生クラブ 代表 ・ 岩田 薫：全国環境保護連盟 代表 ・ 島田 勉：NPO 法人行田ナチュラリストネットワーク 研究部長 ・ 橋本 恭一：NPO 法人行田ナチュラリストネットワーク 代表 (行政) ・ 千代田町 環境保健課／建設水道課 ・ 明和町 経済建設課 ・ 行田市 環境課／道路治水課 ・ (独) 水資源機構 利根導水総合事業所 管理課 ・ 利根川上流河川事務所 <p>(学識者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 浅枝 隆：埼玉大学大学院理工学研究科 教授 ・ 清水 義彦：群馬大学大学院理工学府 教授 <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利根川上流河川事務所 ・ (公財) 日本生態系協会

1. はじめに

■ 挨拶 (利根川上流河川事務所 (以下、「利根上」という))

- ・ 今回、皆様のご理解・ご協力で第4回の検討会の開催の運びとなったが、第3回より間が空いてしまった。調整不足をお詫び申し上げたい。
- ・ 治水と環境の調和を図っていくことを考えていく為にも、車両・バイク等の侵入対策を早急にとる必要があると考えている。本日はその辺りをご議論頂ければと考えている。
- ・ 河川管理者だけでは十分ではないので、検討会の皆さんはもちろん、地域の皆様のご理解も必要であり、地元にもよく説明しながら進めていきたいので、ご協力をお願いする。

■ 規約について

※議事の前に団体より規約についての資料が配付され、対象範囲 (規約第2条)、学識の位置づけと座長の選任 (規約第3条) の2点についての見直し案が提案された。

- ・ この会の名称のとおり、堰を中心に上下流両方を含める方向で第2条を見直すべき、また、学識者の位置づけがおざなりなので、第3条も見直してほしい。事務局とは別に座長を互選で定め、議事進行も第三者的、中立的立場で意見を整理する必要がある。第4条で必要な事項はこの会議にかけて決めとなっているので、皆さんで議論すればと思う。(団体)
- ・ 検討会の再開に際して、この土曜に皆で集まって改めて現地を見て、話し合いをしたうえで提案している。(団体)
- ・ 検討会の名称に、元々“周辺”という言葉が入った経緯があり上下流を含めて考えることになっていた。後退した話にならないよう検討して頂きたい。(団体)
- ・ 大堰周辺は国内有数の鳥の飛来地。珍鳥が来るから貴重なのではなく、自然環境が良いから珍鳥も来る。葛和田の渡しから昭和橋までは大堰に関係する範囲なので、せめて一体として扱ってほしい。(団体)
- ・ 私もこの会議に最初から参加していたが、最初の時の議論で大堰周辺を検討することになった。大堰自体も環境にどう影響を与えているのかも考えるべきだと思う。(団体)
- ・ 私も「環境」の面では関係する区間としては、もっと上下流も影響してくると思う。工事としては限られた範囲が中心となると思うが、関係性は広くとらえてはどうか。(学識者)
- ・ この会は、あくまでも「周辺」としてスタートした。その中で、まず下流部分から議論するというのなら良いが、あえて規約で範囲を狭めたことがおかしいのではないかと。(団体)
- ・ 範囲をあまり限定しないほうが良いのではないかと。利活用している人が関連してくる場合は、そういう人たち抜きには決められない。余り限定をせずに出来る事をやっていく、というのが良いのではないかと。やれそう、やれなさそうということの検討も含めて議論してはどうか。(学識者)
- ・ 私たちは、きちんと議論して治水と環境の両方を実現したい。規約を変え、前段をきちんとした上で工事の話しに入るとのことをお願いしたい。もちろん、関係する全ての事業について、ここで議論できるとは思わないが、せめて情報を出し議論してほしいということ。(団体)
- ・ 範囲の考え方については了解した。はじめから手を広げると成果を挙げていくことが難しくなると考える。議論は優先順位を付けて進めていければと思う。(利根上)
- ・ まずは、掘削水路について議論を進めるということは、全員一致しているかと思う。規約の見直し文案および座長については、持ち帰らせて頂き検討したい。(利根上)

2. 議事について

■資料1について

- ・ ホームページへ基本方針(案)を掲載したこと、希少種の情報等は非公開とすることについては、特に意見もなく了承。

■資料2・3・4について

- ・ 大堰が完成した昭和43年から一帯の調査をずっと行っているが、以前は昭和橋上下流部の礫河原にコアジサシ、シロチドリが普通に営巣していた。明和のグランドから上流には湧水が多く寒地性のトンボなどが生息していた。近年はオフロード、モトクロスが入ってひどい状況になった。地元の人と話しても、昔は魚とりをしていたが今は怖くていけないと話していた。このような取組みが戻って来て大変いいことだと思う。(団体)
- ・ 工事はいつ行われても影響はあるが、ある程度は仕方がないことだと考える。その意味ではゾーンを3つに分けたのは、いいことだと思う。(団体)
- ・ 水面幅や水深は、オフロード車の抑止効果や自然への効果を考えると、できればもう少しあってもよいのではないかと。水路の上下流端に設置するブロックのイメージがわからないが、具体的にはどのようなものか。(団体)

- ・ テトラポットのような根固めブロックをイメージしている。水路は、現案でも相当な土量であり、人などが落ちないような構造も検討していきたい。(利根上)
- ・ 水路の掘削はいいと思うが、こういった将来イメージを持つかということも一緒に考える必要がある。(学識者)
- ・ 砂礫河原の再生とあるが、コアジサシの繁殖は、利根上の管轄内では現在、上武大橋の直下の1ヶ所のみとなっている。こういう形での再生は非常に重要。(団体)
- ・ (学識者からの問いかけに対して) 砂礫河原の後背部はヨシ原ではなく、短い草がまばらに生えているという環境だった。(団体)
- ・ 原風景としては、それもいいのではないか。密な草原では維持できないのではないか。参考資料の1974年の写真位になってもいいイメージか?(学識者)
- ・ 現イメージでは、水の勢いがある大堰直下流付近は砂礫や砂の河原になると想定され、昭和橋近くはもう少し砂泥がちになると推測している。(利根上)
- ・ 方向性はいいと思う。資料公開になるとオフロード車で利用している人たちが合意していないなど言い出さないと心配される。ここはいい環境だから入らないように等、いろいろな利用を想定してガードを考えていかないといけない。(学識者)
- ・ 環境に影響を与えない形での利用まではシャットアウトできないと考えている。この会で地域の合意の元で進める、という確認をとった上で進めていければと考えている。会議後、工事前に地域の人にも絵を示して合意や協力を得ていきたい。(利根上)
- ・ かつて事故もあったので、周辺の方々の理解も得られると思う。水路を造るというのはいい。よく踏み込んで頂いたと思う。資料によるとオオタカも調査で確認されているが、埼玉県の保護指針では、繁殖期の配慮事項などが定められておりご配慮頂きたい。(団体)
- ・ 調査結果を再確認するが、上空を飛んでいたという内容だったと思う。(利根上)
- ・ ミサゴとサシバは、今後繁殖する可能性が出てきている。オオタカは近辺では繁殖しているが、河川敷では繁殖していない。(団体)
- ・ 土壌はどんな状況か。礫の上に砂が堆積しており、今回の事業では上の部分を掘削でとるのか?(学識者)
- ・ 今の砂礫層は低いのでそこまで掘削すると水没してしまう。(団体)
- ・ 詳しくはこれから詰めたいと考えている。ただ、水際はクリーク、ワンド等で工夫したいと考えている。(利根上)
- ・ 洪水等で埋まることもあるだろう。水路から水際までについても、切り下げないと環境は戻らない。段階的に下げていく必要があるだろう。(学識者)
- ・ 水路の水深、法面の勾配の両方が作用すると思う。今でもオフロード車は水たまりにも入ってしまっている。それを思うと、エンジンがとまる位の水深が欲しい。(団体)
- ・ 生き物のことを考えると、一様でなく深い所、浅い所、川幅が広い所、せまい所など変化をつけられるとよい。水路だけでなく、川岸までの間にも真ん中に池があったりと、色々な環境が造れるとよいのではないか。(学識者)
- ・ 水路そのものがビオトープということで認識してよいか?(団体)
- ・ 折角掘るので、そのようにしたいと考えている。(利根上)
- ・ 元々低くなっている所などを利用して掘ってけるとよい。(学識者)

■資料5：今後の予定について

- ・ 冬にはオフロード車はいないのか?防護柵のモニタリングも必要かもしれない。(学識者)
- ・ 一年中いる。夏は暑さと草が多いのがいやなのか、少し減る。(団体)
- ・ 環境調査は工事の前に行い、他の手本として全国に誇れるようお願いしたい。(団体)
- ・ ここでは巡視や調査を行っている。今後も、ということで受け止めたい。(利根上)

- ・ 水際までの再生のスケジュールはどう考えているのか？大まかでよいので教えてほしい。30年度までは掘削水路以外は手をつけない、ということか？（団体）
- ・ できれば早いうちにと思っている。予算や掘った土の使い道との関連もある。（利根上）
- ・ 手順としては、水路を終えてから水際再生、ということではない。中身が決まり次第、水路と並行してやることもあり得ると考えている。（利根上）
- ・ ぜひ並行してやってほしい。コウノトリ・プロジェクトが提示されたことは地元として嬉しく、誇らしい。我々の目指すところをプロジェクトに入れて頂いて有難く思っている。（団体）
- ・ 治水予算も工夫により使えると思うので、知恵を絞って頑張って進めて頂きたい。（団体）

3. その他

■大堰の耐震工事について

- ・ 大堰の耐震工事に関しても、工事そのものに反対するのではないが、現地の環境調査と代償対策なども講じつつ、工事を進めるよう水機構にお願いしたい。今回の会議で示されたような環境への配慮が、耐震工事の計画では全く見られないのではないか。（団体）
- ・ 水路をうまく掘れば、耐震工事の代償対策にも使えるのではないか。うまく工夫すれば工事も利用価値があると思う。（学識者）
- ・ 調査を依頼するのであれば、レベルの高いところ、実績のあるところにしてほしい。調査も年数回と言わずに、少なくとも月1回など。レベルの高い細かい調査を実施すべき。（団体）
- ・ 個人のデータも、ぜひ活かしてほしい。（団体）
- ・ 個人の調査データを、ご提供頂けると有難い。（利根上）
- ・ データだけ渡すというものではないが、環境対策へのいい使い方をして頂けるのであれば、協力することはやぶさかではない。（団体）
- ・ 水路へ水を入れることなど、水資源の方の協力なしには上手くいかないと思うので、宜しく願いしたい。（団体）
- ・ 耐震工事のことは知らなかった。資料を頂きたい。アカガエルの産卵地などは直接影響があると思うので、しっかり調査や対策をして頂きたい。（団体）
- ・ 所内で本日の資料を共有し検討したい。皆さんへの説明についても、持ち帰って検討したい。（行政）

■その他

- ・ 上流の森がひどい状態になっている話を他でもしている。上流の森を守る仕事を作ると過疎にもならないし、下流の洪水も抑止できると思う。森が荒れているから雨量の割に大きい被害が出ている。そうした大きな取組みの検討もお願いしたい。（団体）
- ・ 関東エコネットのコウノトリの事業での私の役割は、いかに地域活性化に結び付けるかということだと認識している。このプロジェクトの中での取組みとどう関連づけるかはこれからだが、大堰付近は観光ポテンシャルが高いと思う。（学識者）
- ・ 堤防の工事に関連して、地元では地域づくりの会も立ち上がっている。ぜひ結び付けていきたい。今回の動きは、地元にも話していきたいと思う。（団体）

■次回の検討会について

- ・ 次回は1～2月頃に現地視察も兼ねて開催予定。日程調整は改めてご連絡させて頂きたい。（利根上）

以上